

# 年金給付等準備金運用の基本的な仕組み

## 1 農業者年金制度の資金運用の特徴

農業者年金制度は、確定拠出型の年金制度です。

旧制度のような加入期間に応じて年金額が決まる確定給付型の年金制度と異なり、現在の制度は、被保険者が積み立てた保険料等とその運用収入に応じて年金額が決まる仕組みです。

積み立てた保険料等については、他の確定拠出型年金と異なり、基金が法令により運用・管理を一元的に行っています。

このため、基金としては、安全かつ効率的な資金運用を行うため、主務大臣の認可を得て策定した「年金給付等準備金運用の基本方針」に基づいて運用を行っています。

## 2 安全かつ効率的な運用を行うための体制

### 資金運用の専門部署の設置

効果的な機能分担と相互牽制体制として、運用を担当する運用課と企画・監視を担当する企画課で構成される資金部を設置

### 資金運用委員会の設置

資金運用委員会では、資金運用・管理に関する重要事項の検討や運用結果の評価・分析などを実施

### 外部専門家の活用

年金コンサルタントによるサポート、資金運用委員会委員に外部専門家の参加人材の確保・育成

外部からの資金運用・年金数理の経験者の採用、職員の研修などを通じて、人的資源を拡充

## 3 安全かつ効率的な運用を行うための制度・仕組み

### リスク許容度の違いに応じた資産構成・運用

被保険者の資産の運用にあたっては、長期的な視点に立って、可能な限りの総合収益を確保し、裁定時の年金原資額を最大限確保することを目指し、各投資対象資産のリターンとリスクのバランスのとれた最適な資産の組合せによる分散投資を行っています。

受給権者の資産の運用にあたっては、年金額の支給を安定的に行うため、国内債券により給付債務と資産（給付原資）の評価額が一致するように運用を行います。

#### 付利準備金による運用リスクの緩和

被保険者への付利を安定的に行うため、運用益の一部を付利準備金として積み立て、運用損が発生した時に補填財源として取崩します。

#### 自家運用と外部運用の使い分け

自家運用は、安全な国内債券と短期資産に限定しています。パッシブ（インデックス）運用など高度な専門知識が必要な運用については、外部の運用機関に委託します。

#### 満期保有目的の債券による価格変動リスクの緩和

価格変動リスクの緩和を図るため、国内債券の自家運用部分は、原則として満期保有目的の債券による運用を行っています。

#### 運用業務等に関するルールの遵守

資金運用・管理にあたっては、法令等の遵守に加え、外部の運用機関に対する運用ガイドライン等を定めて運用を行っています。

#### 運用評価のルール化

運用評価の基準を定め、評価を行います。

#### 運用結果等の情報提供

毎年3月末日において、被保険者ごとに、当該事業年度の運用収入の額を算定するとともに、6月中にその運用結果等を各被保険者に対し直接お知らせしています。

この他、四半期毎の運用成績等の運用に関する情報を基金のホームページに掲載しています。